



〈プロフィール〉
越雲悠琢さん
那須烏山市出身 25歳
那須烏山市 職員
山あげ保存会 芸能部 所属

自然体で仕事をする姿

那須烏山市の税務課に勤務している越雲悠琢さんは、とてもおらかな印象だ。その印象とは対照的に、毎年7月に行われる「山あげ祭」では歌舞伎役者として舞台上立つ。

平日は、仕事と家の往復。帰宅後や週末は共に暮らす犬や猫と遊んだり、趣味であるバスケットを楽しんだりしている。一方で、舞台の稽古も欠かさない。

那須烏山市に住み続けている。「なにか思いつめたことがあると、市内にある自然の中に行く。龍門の滝を見るのが好きだ」と教えてくれた。水が滝を落ちる様子を見たり、その音を聞いたりと、心が落ち着きリラックスできるそうだ。都会にはない那須烏山の自然が心を癒し、おらかな性格を育んだのだろう。仕事に真摯に向き合いながら、プライベートも充実させて、仕事と生活のバランスが良く、現代を生きる社会人の理想の生き方だと感じた。

継 続する力

高校時代は、部活動でバスケットボールに熱中。部内にはほとんど経験者がいないという状況にも関わらず、練習を重ね県北の大会でベスト4に入る実績を残した。現在も、那須烏山市や宇都宮市でバスケットボールの練習を続けている。毎週、舞台の稽古にも打ち込む。プライベートな自由と踊りに対する責任とがしっかりと両立されている。やるべきことはやる、継続してとことん打ち込む、という芯の太さがある。



▲山あげ祭の舞台上に立っている越雲さん

山 あげ祭に関わってきた23年間

「山あげ祭があるから、ずっと那須烏山市に住んでいる」と言うほどに、山あげ祭への熱量が大きい。初めての舞台は2歳の時。「母の指導を受け、気づけば舞台の上だった」と振り返る。山あげ祭が生活の一部となって育ってきたそうだ。お姉さんや甥御さんも参加しているという。「山あげ祭を成功させようと町全体が動くのが魅力」と言い切る。それは、町が1つになって1つの目標に向かっていくということ。幼い頃から祭りに携わっていることで、地域の人との関わりも深い。「山あげ祭の舞台に立つ達成感も大きい。一緒に稽古をしている子供たちの成長を、肌で感じ取れることも喜びだ」と誇らしげだ。山あげ祭は、地域の輪をつなぐ重要な役割を担っている。

担当：藤原謙